

旧吉田茂邸案内図



このたびの再建事業では、焼失前の邸宅のうち、応接間棟・新館棟をメインに再建しました。そのうち、玄関と新館棟は近代数寄屋建築で有名な吉田^{いそや}五十八設計の建物を再現しており、随所に吉田五十八の建築の特徴がみられます。すっきりとした直線によって構成された建物は、モダンな雰囲気を醸し出しています。さらに、旧吉田茂邸は体験型の博物館施設として、吉田が生きていた当時の様子に近づけています。また、邸内には展示スペースを設け、展示を行う予定です。どなたでも利用できる研修室も設けていますので、ぜひご利用ください。



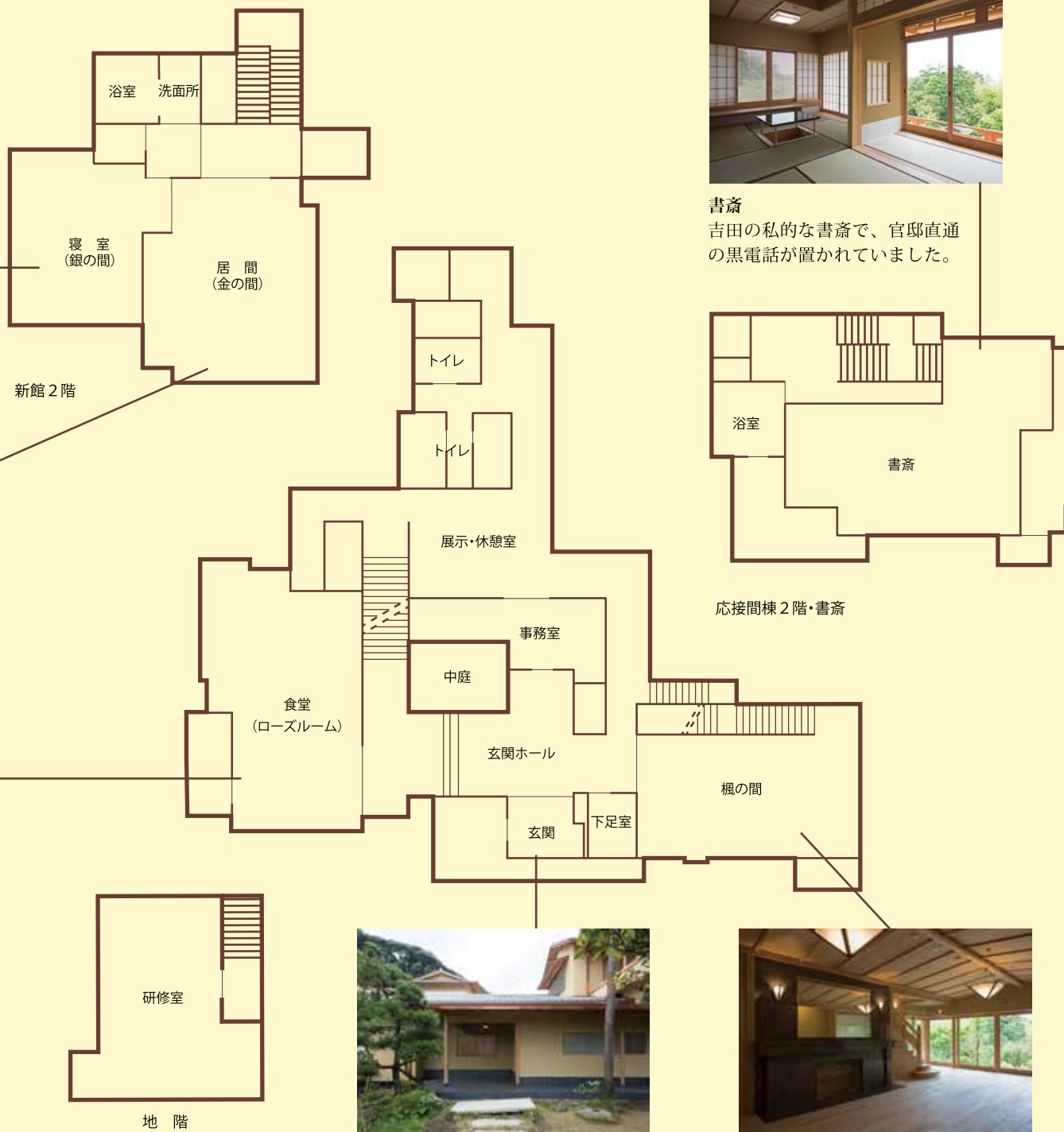
銀の間
吉田の寝室兼書斎です。ここで、吉田は最期を迎えました。



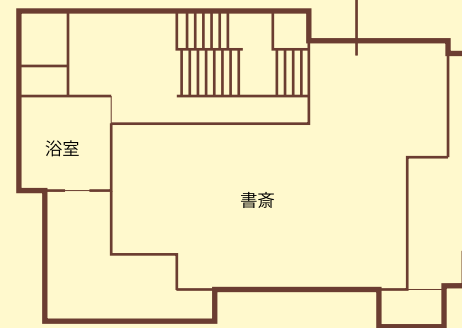
金の間
賓客をもてなす応接間です。箱根の山々と富士山、相模湾を一望できます。



食堂（ローズルーム）
吉田が食事をとっていた場所です。来客に食事をもてなす際にも使用されていました。



書斎
吉田の私的な書斎で、官邸直通の黒電話が置かれていました。



応接間棟 2 階・書斎



玄関



楓の間
応接間として使われており、吉田の執務机やソファセットがありました。

旧吉田茂邸にまつわるエピソード



1 皇太子（今上天皇）夫妻を大磯の自邸にて出迎える

昭和 41 年、当時皇太子だった今上天皇と皇太子妃であった美智子^{かふともん}様が邸宅を訪れました。吉田は、この日のために庭を改造し、兜門^{わだち}から中に車が入れるよう、轆^{わだち}を作って出迎えました。

2 大磯小学校・鼓笛隊の吉田茂邸訪問

昭和 39 年 5 月 6 日、吉田が大勲位菊花賞を受賞したお祝いに、大磯小学校・鼓笛隊の子どもたちが邸宅を訪問しました。（『広報大磯』第 46 号掲載）

応接間棟

昭和 20 年代、吉田が内閣総理大臣であった時代に建てられた棟です。2 階の書斎には、官邸直通の黒電話が置かれていました。また、大磯の船大工が関わったという舟形の浴槽も建物の一部として再現されています。

新館

昭和 30 年代、吉田は海外からの賓客を迎えるため、著名な建築家・吉田五十八に設計を依頼しました。近代数寄屋建築と呼ばれる建築様式をもちい、和と洋が融合された近代的な造りとなっています。応接間であった「金の間」からは、吉田が愛した富士山をはじめ、箱根の山々と相模湾を一望できる、素晴らしい眺望となっています。また、吉田が最期を迎えた寝室「銀の間」も、亡くなった当時のベッドを再現しています。

※写真はオープン前のものです。オープン時には、家具や調度品を再現・設置し、当時の様子に近づけます。